

平成29年10月31日
都市局街路交通施設課
市街地整備課

第1回都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会の開催

～都市にとって望ましい自動運転技術の活用のあり方について検討します～

国土交通省では、将来的な自動運転の活用に向け、自動運転技術の都市への影響可能性の抽出・整理及び自動運転技術の活用についての検討を行うため、都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会（座長：森本章倫 早稲田大学理工学術院社会環境工学科教授）を設置し、11月2日に第1回検討会を開催します。

現在、自動運転に関する技術開発が急速に進められております。

国土交通省では、自動運転に関する技術開発を踏まえ、都市にとって望ましい自動運転技術の活用のあり方を検討するため、自動運転技術の都市への影響可能性を抽出・整理し、今後の都市交通に関する課題を踏まえた自動運転技術の活用について検討を行います。

なお、平成29年6月に国土交通省自動運転戦略本部で公表した自動運転の実現に向けた今後の国土交通省の取組において、実証実験等の検討項目として位置づけられた「ニュータウン」と「基幹的なバス」については、分科会を設置し、実務的な見地から効率的な検討を行います。（参考資料参照）

記

1. 日 時 平成29年11月2日（木）10:00～11:50
2. 場 所 中央合同庁舎3号館11階 特別会議室（東京都千代田区霞が関2-1-3）
3. 委員等名簿 別添のとおり
4. 議 題 (1) 本検討会の設置について
(2) 本検討会における検討課題と検討方針について
(3) 分科会の設置について（①ニュータウン分科会 ②基幹的なバス分科会）
(4) その他（今後の進め方について）
5. そ の 他 ・ 報道関係者に限り、取材（傍聴・撮影）は可能です。
・ 傍聴は会議冒頭から終了まで、撮影は会議冒頭（議事に入るまで）可能です。
・ 取材ご希望の方は11月1日（水）17時までに所属、氏名、連絡先を以下の問い合わせ先まで登録をお願いします。
・ 配布資料及び議事要旨は、後日、国土交通省ホームページに掲載します。

<問い合わせ先>

（検討会・基幹的なバス分科会について）

国土交通省 都市局 街路交通施設課 田賀、関澤

電話：03-5253-8111（内線32852、32853）、直通：03-5253-8417、FAX：03-5253-1592

（ニュータウン分科会について）

国土交通省 都市局 市街地整備課 野村、杉山

電話：03-5253-8111（内線32714、32733）、直通：03-5253-8412、FAX：03-5253-1591

都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会

委員名簿

(敬称略 50 音順 ○：座長)

糸久 正人	法政大学社会学部 准教授
大串 葉子	新潟大学経済学部 准教授
金森 亮	名古屋大学未来社会創造機構 特任准教授
中村 英夫	日本大学理工学部 教授
中村 文彦	横浜国立大学 理事・副学長
藤原 章正	広島大学大学院国際協力研究科 教授
三好 庸隆	武庫川女子大学生活環境学部 教授
森川 高行	名古屋大学未来社会創造機構 教授
○森本 章倫	早稲田大学創造理工学部 教授

1. 自動運転の実現に向けた環境整備

(1) 車両に関する国際的な技術基準

- 平成28年9月に、**G7交通大臣会合**において民間投資を促進し、**安全で国際的に調和した未来志向の規制の策定**という一つの方向に向けて努力を強化することに合意。**今年のG7交通大臣会合（6月、イタリア）では、より高度（レベル3、レベル4）な自動運転技術の有人下での実用化に向けて、国際的なレベルでの協力を目指すことを提案する。**



G7交通大臣会合

- 自動運転に関する**更なる高度化（レベル3、レベル4）を前提とした車両安全基準の議論を日本が主導**して開始する。
 - 自動操舵及び自動ブレーキ**に関する議論を主導し、車両安全基準の策定を進める。
 - サイバーセキュリティ対策**に関し、具体的な安全確保要件等の検討を進める。
- ※ 平成29年2月に、代替の安全確保措置が講じられることを条件に、ハンドル・アクセル・ブレーキペダル等を備えない自動運転車の公道走行を可能とする措置を国内で実施。

(2) 自動運転車における事故時の賠償ルール

- 自動運転車が、人に損害を与えた場合の**責任のあり方について**検討するため、平成28年11月に「自動運転における損害賠償責任に関する研究会」（有識者、関係省庁等から構成）を設置。
- 平成29年4月論点整理。**今年夏頃に第4回を開催し、各論点について議論を進める予定。**

2. 自動運転技術の開発・普及促進

(1) 車両技術

- 自動ブレーキやペダル踏み間違い時加速抑制装置など一定の安全運転支援機能を備えた車「安全運転サポート車」の普及啓発に関する関係省庁副大臣等会議を開催し、**平成29年3月に中間とりまとめを実施。**
- 安全運転サポート車のコンセプトを定義。「サボカーS」等の愛称を用い、官民をあげての普及啓発を行う**とともに、**先進安全技術の国際基準化を主導。**
- 自動ブレーキの新車乗用車搭載率を2020年までに9割以上とする。**



衝突被害軽減ブレーキ



ペダル踏み間違い時加速抑制装置

(2) 道路と車両の連携技術

① 高速道路の合流部等での情報提供による自動運転の支援<新規>

- 合流部の自動運転に必要な合流先の車線の交通状況の情報提供など、**自動運転を支援する道路側の情報提供の仕組みを今年度から検討。**

② 自動運転を視野に入れた除雪車の高度化<新規>

- 大雪時の適切な交通確保のため、**自動運転を視野に入れつつ、運転制御・操作支援等除雪車の高度化を段階的に推進。**

3. 自動運転の実現に向けた実証実験・社会実装

(1) 移動サービスの向上

① ラストマイル自動運転による移動サービス

- 全国4箇所では安全性を検証（保安基準への適合性確認、基準緩和措置における安全性確保の検証等）。

② 中山間地域における道の駅を拠点とした自動運転サービス

- 今年夏頃より、全国10箇所では実証実験を順次開始予定。

③ ニュータウンにおける多様な自動運転サービス<新規>

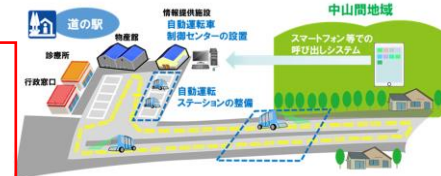
- 歩車混在空間における安全性等について今年度から検討

④ ガイドウェイバスを活用した基幹バスにおける自動運転サービス<新規>

- 専用軌道区間における自動加減速について今年度から検討



ラストマイル自動運転のイメージ



道の駅を拠点とした自動運転サービスのイメージ



トラックの隊列走行のイメージ

(2) 物流の生産性向上

- トラックの隊列走行について、平成29年5月に**メーカー及び事業者からのヒアリング**を実施し、事業者・メーカーの考えを聴取。**今後、要望を踏まえ具体的検討を推進。**